協議会の活動

活動紹介

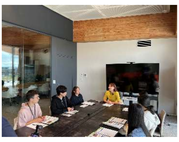
協議会の活動
- 活動紹介
- 特集記事サイト

令和7年度「新しい東北」官民連携推進協議会では、福島県において「福島『ふるさと愛』プロジェクト2025～未来への架け橋～」を開催しました。

全国から集まった大学生が、地元の方々との交流や取材を通じて、震災復興の歩みとともに"ふるさと愛"の意味を探る三日間のフィールドワークを行いました。
2025年10月11日（土）から13日（月・祝）にかけて行われたネクプロ2025には、全国の大学生17名が参加しました。
初日は東日本大震災・原子力災害伝承館、震災遺構浪江町立請戸小学校、東京電力廃炉資料館を訪問し、複合災害の実態と教訓を学習しました。

2日目・3日目はテーマごとに3つのコースにかれた、現地取材を実施しました。
フィールドワークは「女性の活躍」「地元回帰」「未来への投資」の3つのテーマに分かれて行われ、それぞれが地域の新しい歳晩を探る研究となりました。
現地の人々との対話を通じ、「復興」から「共創」へと歩む福島の"今"を多面的に学び取ることができました。

3コースの概要
① 福島県で活躍する女性からふるさと愛について探究
訪問先：おおくままちづくり公社（遠藤氏）/ 認証森林（矢野氏）/ 住民団体「なみとも」（小林氏）
地域の女性たちが、復興の現場で新たな価値を生み出していく姿を取材しました。
大熊町のまちづくり公社遠藤氏に教わる遠藤氏は「帰還した人々の生活再建を支えることが使命」と語り、能登町の認証森林では「地域に関わることと自体が復興である」と学生たちが共感を寄せました。
浪江町「なみとも」では、若者が町民と共にイベントを企画し、地域の輪を広げる姿が印象に残りました。



② 福島県で自分らしく生きる地元回帰について探究
訪問先：浪野鮮魚株式会社 フタバスーパーゼロエル（岡田氏）/カフェ＆ギャラリー秋風舎（志賀氏）/おかしなお菓子屋さんLiebe（横須賀氏）
「自分のらしく地域と生きる」をテーマに、移住・起業・文化発信の現場を取材しました。
双葉町の岡田氏は、あの実体験を通じて「世界に誇れる地元産業」を目指してあり、双葉氏は古民家を改装したカフェで「村に人が関る きっかけをつくりたい」と語りました。
横須賀氏の「家族や町の人々に支えられながら、自分らしい働き方を実現する」という言葉に、学生は深い印象を受けました。

③ 福島県への未来に投資　地元での生業について探究
訪問先：株式会社HT.Coast（谷口氏）/ 東日本大震災・原子力災害伝承館（横山氏）/ 株式会社紅梅夢ファーム（田丸氏）
「復興を超えた地域の未来づくり」をテーマに、若手経営者や専門家の挑戦を取材しました。
株式会社HT.Coastは口に出て「自分のまで共通りを充実にしたい」と語り、被災地での創業支援を行っています。
南相馬市の鈴木氏は、農業を通じて「人と自然がつながる新しい働き方」を実践しており、学生たちは"生業を通じて地域を再生する"という視点を持つようになりました。

成果として、震災と原発災害の教訓を踏まえた、地域の新たな可能性を多角的に学ぶことができました。また、地域の人々が語る「ふるさと愛」を学生が映像・言葉で記録し、デジタルアーカイブ化を進めることができました。
3コースで制作された映像は、12月の「東北3県・石川県合同セミナー」にて上映予定です。

まとめ
震災から14年が経過し、福島の地で出会った"の以、"被災地"ではなく、"未来を紡ぐまち"でした。学生たちは「ふるさとを愛することは、過去を忘れないこと、そして未来を信じることと語り、それぞれの取材を通じて学生たち学びと共感は、確かな次世代への架け橋となりました。

一覧に戻る

復興庁 Reconstruction Agency
復興に安全・安心な社会の実現を！ 東日本大震災10年 2021 FUKUSHIMA 福島県
東日本大震災伝承施設ガイド
東京2020 応援プログラム 東京オリンピック・パラリンピック
ウルトラマンZ

©2019「新しい東北」官民連携推進協議会.AllRightReserved.